

買い物難民問題への取り組み



【本地丘学区】

■世帯数：1,924 世帯

■人 口：3,952 人

■面 積：0.266 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 日常的な買い物に行くための交通手段を持たない買い物難民対策として、公設市場の駐車場および軒先を借用して、毎週土曜日に朝市を開催している。
- ・ 野菜をはじめ豆腐、魚介類などを移動販売してくれる業者を誘致している。

【住民への PR 方法】

掲示板への掲示。テレビ番組や新聞からの取材があった

【アピールポイント】

高齢者の生活支援に役立っているだけでなく、運営ボランティアたちに満足感や達成感が生まれ、住民間の繋がりができてきている。

2 きっかけ、背景

小売市場（スーパーマーケット）が撤退し、学区内の生鮮食料品店がなくなったため、車が無い世帯はバスを使って買い物に行くことになった。学区の高齢化率は約 30%となっており、荷物を持ったままバス停から家まで歩くのが大変だという高齢者の声が高まり、移動販売車を誘致して朝市を開くこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、自主的なボランティア支援者
計約 220 人

(2) 運営協力

商品を置く機の準備、レジ袋詰めなど、人手がかかるため、学区連絡協議会の協力を得て、3～4人の当番制を組んでいる。

4 実施のスケジュール

H24 年度 NPO法人立ち上げの準備

H25 年度 1年かけてNPO法人“ふれあいサロン”の立ち上げ



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 朝市が買い物客の憩いの場になってきており、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

- ・ 最初は、自治会の役員だけで活動をしたため、毎週土曜日に朝市の運営を手伝ってくれる人を確保することに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代、活動資金の確保、他団体との協力が課題。
- ・ 買い物時の情報交換だけでなく、いつでも集まれる“ふれあいサロン”的な環境を整備していきたい。

